

リトルシニアの投球数制限に関する統一ガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

(一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会投手の投球数制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内とする。
- ② 連続する2日間で130球以内とする。
- ③ 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし、3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で当該打者の打席途中に、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。4連投(連続する4日間)は認めない。
- ④ 上記① ②の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
- ⑤ 1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能とする。
- ⑥ 打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
(例. 2ボール・1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目		第3日目	第4日目	第5日目		第6日目	第7日目	予備日
投手A	※ 90 (93)	※ 40 (46)			90	※40 (42)			※ 90 (92)	※ 40 (42)
投手B		79		※ 51 (56)		44		※ 86 (91)		※ 90 (92)
投手C				40	※90 (95)			89	※41 (45)	
投手D	45	45		※ 40 (42)		45		45	※40 (45)	
投手E	45	第一試合	45		45	第一試合	23	※40 (42)		
		第二試合	※40 (42)			第二試合	22			
投手F	45	第一試合	48		45	第一試合	22	※ 40 (45)		
		第二試合	※37 (39)			第二試合	23			
投手G	※ 90 (95)			90		※ 90 (94)		※ 40 (45)		※ 90 (92)

※()内は打席の途中で制限数に達し、当該打者の打席終了まで実際に投じた投球数を示す。

以上

<様式 A> ※試合毎の投球数は、
様式 Bより転記する。

投 球 数 確 認 シ ー ト 【本部提出用】（試合終了後チームで保管）

大会名 : _____ チーム名 : _____ 日本リトルシニア中学硬式野球協会

球 場 名																	
試 合 月 日		/		/		/		/		/		/		/		/	
対 戦 相 手		VS		VS		VS		VS		VS		VS		VS		VS	
背番号	投 手 名	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数
1		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
2		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
3		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
4		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
5		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
6		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
7		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
8		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
投球数カウント者 確認サイン(自チーム)																	
投球数カウント者 確認サイン(相手チーム)																	
監督 確認サイン																	

【投球数制限】 注)打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ①1日最大90球以内とする。
- ②連続する2日間で130球以内とする。
- ③3連投(連続する3日間)する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし、3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中に、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。4連投(連続する4日間)は認めない。
- ④上記 ① ②の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
- ⑤1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能。
- ⑥打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントする。

- また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。(例:2ボール.1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑧雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。
- 【本シートの運用方法】
 - ①試合終了後、本シート(原本)に両チーム投球数カウント者が投球数を記入し、サインをする。その後に、監督へ確認およびサインを受ける。
 - ②監督は、サインされた本シート(原本)を次の試合まで保管する。
 - ③監督は、連戦等の場合は開始前に本シート(原本)とコピー2部を大会本部へ提出する
注)連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する

<様式 B> (1試合用)

投 球 数 確 認 シ ー ト

【責任審判員保管(試合終了後)】

日本リトルシニア中学硬式野球協会

大会名 : _____ チーム名 : _____

試合日 : 年 月 日 (第 試合) 球 場 名 : _____

< 記 入 例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投 手 名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB - 1	TB - 2	TB - 3	合計
1	日本 一郎	90 (92) 球	正正正	正正正	正正正	正正正	正正正						90(92)球
			15 / 15	17 / 32	20 / 52	20 / 72	20/90(92)	/	/	/	/	/	

注)五回、打席の途中で制限数の90球に達し、当該打者の打席終了まで投じた結果、累計の投球数が92球となった例。

【 記 入 欄 】													
背番号	投 手 名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB - 1	TB - 2	TB - 3	合計
1		球											球
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
2		球											球
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
3		球											球
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
4		球											球
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
5		球											球
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

【投球数制限】 注)打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ①1日最大90球以内とする。

②連続する2日間で130球以内とする。

③3連投(連続する3日間)する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中に、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。

4連投(連続する4日間)は認めない。

④上記 ① ② の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
- ⑤1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能とする。

⑥打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。

⑦申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。

⑧雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。

⑨異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。
- 【本シートの運用方法】
・投球数カウント者が様式Aへ転記し、試合終了後、責任審判員が保管する。

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前／試合中／試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証、投球数確認シート等の監督からの受理（理事及び、審判員）

チームが試合会場に到着次第、監督から可及的速やかにメンバー表、選手登録証、投球数確認シート等を預かる。

連戦の場合は、監督から投球数確認シート(様式 A)を預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

連戦の場合は、投球数確認シート(様式 A)のコピーを対戦相手チームに渡し、各投手の投球可能数を開示する。

各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。

(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（対戦する両チームの投球数カウント係）

投球数のカウントは、対戦する両チームの投球数カウント係(父母等)1名ずつの2名体制で行う。

放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、両チームの投球数カウント係に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. イニング途中での投手交代（対戦する両チームの投球数カウント係）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球可能数に達した時（対戦する両チームの投球数カウント係）

投球可能数に達した場合、「〇〇投手は規定の投球数に達しましたので交代となります」とアナウンスを入れる。ただし、打席の途中で投球可能数に達した場合は、当該打者の打席が終了した時点でアナウンスを入れる。

6. 試合終了後（対戦する両チームの投球数カウント係）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

投球数カウント係が記入した投球数確認シートの原本(様式 A)は投球数カウント係がサイン後、監督へ確認を求め、サインを受ける。

投球数確認シートの原本(様式 A)は監督に返却する。投球数確認シートの原本(様式 B)は、責任審判員が保管する。

万が一、投球数について監督から異議の申し出があった場合は、上記の3. 及び、4. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

以上